

ます。
防災訓練や防災に関する研修をとおり、地域防災組織の災害対応力を強化してまいります。

5. 基地のない平和がいちばん

普天間飛行場は戦後79年、沖縄が日本に復帰してから52年、日米両政府による全面返還合意から28年経過してもなお返還されず、この間、宜野湾市民は過重な基地負担を強いられてきています。

また、普天間飛行場が本市のど真ん中にあることで、本市の効率的なまちづくりを進めるうえでの障害要因となっているだけでなく、沖縄本島における交通、流通を阻害し、沖縄の発展を阻害してまいります。
裏を返せば、普天間飛行場の跡地は、沖縄振興はもとより、日本経済をけん引する可能性を秘めている地域であるとも言えます。市民の願いは一つであり、普天間飛行場の固定化を許さず一日も早い閉鎖、返還とすみやかな運用停止を実現することです。私は、これを勝ち取るため、国に対してあらゆる方策を講じて求めてまいります。まずは、返還期日の早期確定と返還までの間の危険性除去と目に見える形での負担軽減を求めてまいります。具体的な方策として、普天間飛行場代替施設建設の進捗状況に合わせた普天間飛行場所属機の段階的移

駐や、全国の米軍基地への分散移駐、訓練の全国への移転などを国に対し強く求めてまいります。

普天間飛行場の閉鎖・返還、返還までの間の危険性除去と負担軽減を実現するためには、宜野湾市が一丸となって意思表示することが重要です。市民の皆様や各種団体と連携した「チーム宜野湾」で取り組み、基地のない平和を実現してまいります。

これは普天間飛行場だけでなく、キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区についても同様です。返還期日の早期確定を国に求めるとともに、地権者の意向を踏まえた跡地利用計画の策定に向け、引き続き取り組みまいります。

6. 夢のある明日がいちばん

普天間飛行場跡地につきましては、先ほども申し上げたとおり沖縄振興はもとより、日本経済をけん引する可能性を秘めております。沖縄県経済団体会議をはじめとした沖縄の経済界の各団体、那覇市、浦添市と一緒に「GW2050 PROJECTS」を推進し、基地返還跡地の一体的な利用と那覇空港の機能強化を図り、真に日本をけん引し、次代の沖縄の進化を象徴する「世界に開かれたゲートウェイ」とするための検討を進めてまいります。

す。また、公共用地の先行取得を進めるとともに、世界に誇れる沖縄を象徴する跡地利用のため、跡地利用計画の策定に向けて取り組みます。

西海岸地域については、現在、建設中の8千人規模の屋外劇場の機能も踏まえながら、宜野湾海浜公園、沖縄コンベンションセンター、宜野湾港マリーナなどを一体としてとらえた都市型観光拠点化を推進します。

また、西海岸地域と隣接する大山地区については、区画整理事業への地権者等の意見を踏まえたまちづくりを積極的に推進します。

モノレールの延伸及び新交通システムの導入に取り組みます。

男女共同のまちづくりを目指し、女性の社会進出を推進し、誰もが自分らしく暮らし続けられるまちづくりを実践します。

男性の育児休暇・休業取得率の向上のため、関係機関の意見を伺いながら実効的な取り組みを検討するとともに、市役所内の環境整備にも取り組みます。

近年、人気が高まっている「eスポーツ」の普及に取り組みます。

以上、今後4年間の市政運営にあたり、私の基本的な考え方や、取り組む姿勢について所信の一端を申し述べました。

ただいま申し上げたことのほとんどは、松川前市長が市民の皆様とお約束してきた政策でございます。私は松川前市長の

想いを受け継ぎ、これらの政策を前に向かって進め、「宜野湾がいちばん」だと実感していただけるよう、市政運営に全力で取り組んでまいります。

今後とも、議員各位並びに市民の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。市長就任にあたっての所信表明といたします。

すべての市民が幸せを感じ
「宜野湾がいちばん」
と実感できるように

令和6年10月1日
宜野湾市長

ききま あつし
佐喜眞 淳